



## タイ奨学金里親プロジェクト

〒387-0011  
千曲市机瀬下1201-2-B201  
TEL&FAX.026-272-7767  
E-mail.creyes@valley.ne.jp

会報Vol.4 2005.5



## 第2回里親ツアーに行ってきました!

今年2月9日から16日の8日間、「2回里親ツアー」を開催しました。千曲市、上田市、長野市、下伊那から里親計13名が参加。チェンマイ市52名、サンサーイルアン町30名、ドークカムターイ郡60名、計142名の奨学生の里親を代表し、現地を訪問し、関係者や先生、保護者が見守る中、子供達へ奨学金の後期半年分を授け、手渡してきました。

<1日目>

9日空港に到着すると、チェンマイ市の職員、教員、里子たち約30名が出迎えに来てくれ、花のレイを掛けて歓迎してくれました。

市内のスリー・ウォン・ホテルにチェックインし、ナイトバザールにあるク

ボンレストラン(クーポンを購入し屋台村方式で好きなものをセルフサービスで買って食べられ、ステージではタイの民族舞踊が披露される)で食事をしました。

<2日目>

10日は朝9時出発。全員でチェンマイ市郊外のサンサーイルアン町を訪問。当プロジェクトの顧問である町長が出迎えてくれました。町役場を見学してから子供達が待つ隣の寺院へ向かいました。今年から担当になったヨイさんは、英語が堪能、手配もスムーズで、今年は里子全員と、6校の理事長と担当者がすべて揃って、奨学金の授与式を行うことができました。

その後サンサーイルアン校を訪問。授

業見学、施設見学をしました。小学校から英語の授業が聞こえることに驚きました。思いがけず、町長のご好意で郷土料理をいただきました。

午後はバヤオへ向け、出発。丘陵地を抜け、山道を通って約4時間半。両輪は水田地帯が多く、広葉樹が茂る緑豊かな地域です。昨年とくらべると道路整備が急ピッチで進んできているという印象を受けました。

夜は、迎えに来てくれたドークカムターイの郡役場の職員の方々、食事をしました。その後先方の提案で、ボイスカウトが集まるキャンプファイヤーに急ぎ参加。「日本人を見たのは、初めて」という子供達を前に、参加者は日本の歌を歌って、文化交流をしました。

## イベントを通して子供との交流を

<3日目>

この日は、ドークカムターイの支援校を3校、回りました。まず、今年度から初めて奨学生を支援することとなったアムバードークカムターイ校とバーンドークカムターイ校を訪問。両校とも小規模で、昔懐かしい日本の田舎の木造の学校というイメージ。子供達に奨学金やノートを渡しました。また参加者の里子の自宅にも訪問しました。

ドークカムターイウィックヤーク46校を訪問。昨年と違い、集会場や給食室が新しくなっていました。ここでは授与式の後、2,3年生の算

数の授業を見学したり、昨年ではできなかった家庭訪問も行うことができました。

また夕方から、学校側と相談して、キャンプファイヤーを企画してもらい、校庭で里子や保護者、生徒達、教員など、約200名が参加して、ゆっくりと交流することができました。現地に住んでいらっしゃる日本人のご夫妻にも、ボランティア通訳としてお手伝い頂きました。



## 里子の家に訪問しました!



今回は参加した里親一人一人が、自分の里子の家を訪ねることができました。高床式の根元木の本家で暮らす子供達や、雑居に預けられている子、また学校の用務員の子供達が学校に住んでいる子供等、それぞれ感銘深いものがありました。

また美しい中でも、電化製品が目立ち、現代と過去の文化のアンバランスな点に疑問をもつ里親もいたようです。たくましく生き抜く子供達に感動です。



## 休日にはタイの文化を満喫しました!

4日目はバヤオ市内を観光、都役所や消防署を視察し、チェンマイ市内へ戻りながら山の上の寺、ワットブラシーを訪れました。

5日目の日曜日を利用して、オプショナルツアーへ参加しました。ぞうに乗ったり、牛車に乗って山岳民族の村々をたずね歩いたり、いかに下りをしました。

象のフンドで紙を作る工場や、蘭の栽培所を見学。夜には「カントークディナー」に参加。本格的な民族舞踊を見ながら、王宮料理を楽しみました。

